

## (小さな拠点関係資料)

### Ⅲ. 地方創生の深化に向けた政策の推進

国の「総合戦略」では、4つの基本目標が掲げられ、それぞれについて具体的な数値目標や施策が盛り込まれている。今後、地方創生の深化に向けて、以下の考え方に沿って取組を進めていくものとする。

#### 4. 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

##### (2)「小さな拠点」の形成(集落生活圏の維持)

「小さな拠点」の形成に向けた取組を行う場合、土地利用や施設配置に係る取組にとどまらず、集落生活圏において必要な生活サービスの提供、収入を得るための事業が将来にわたって継続できるようにすることが重要である。その際、①地域住民が自ら主体的に地域維持のための取組に参画すること、②持続可能な取組とするためには、域内サービス提供の事業と同時に域外からの収入確保のための事業を併せて行うこと、③事業を実施する上で、地域住民、事業経営体などの参画・能力の活用に加え、Uターンなど外部人材の導入や専門人材等によるサポートが求められる。

##### ①地域住民による集落生活圏の将来像の合意形成

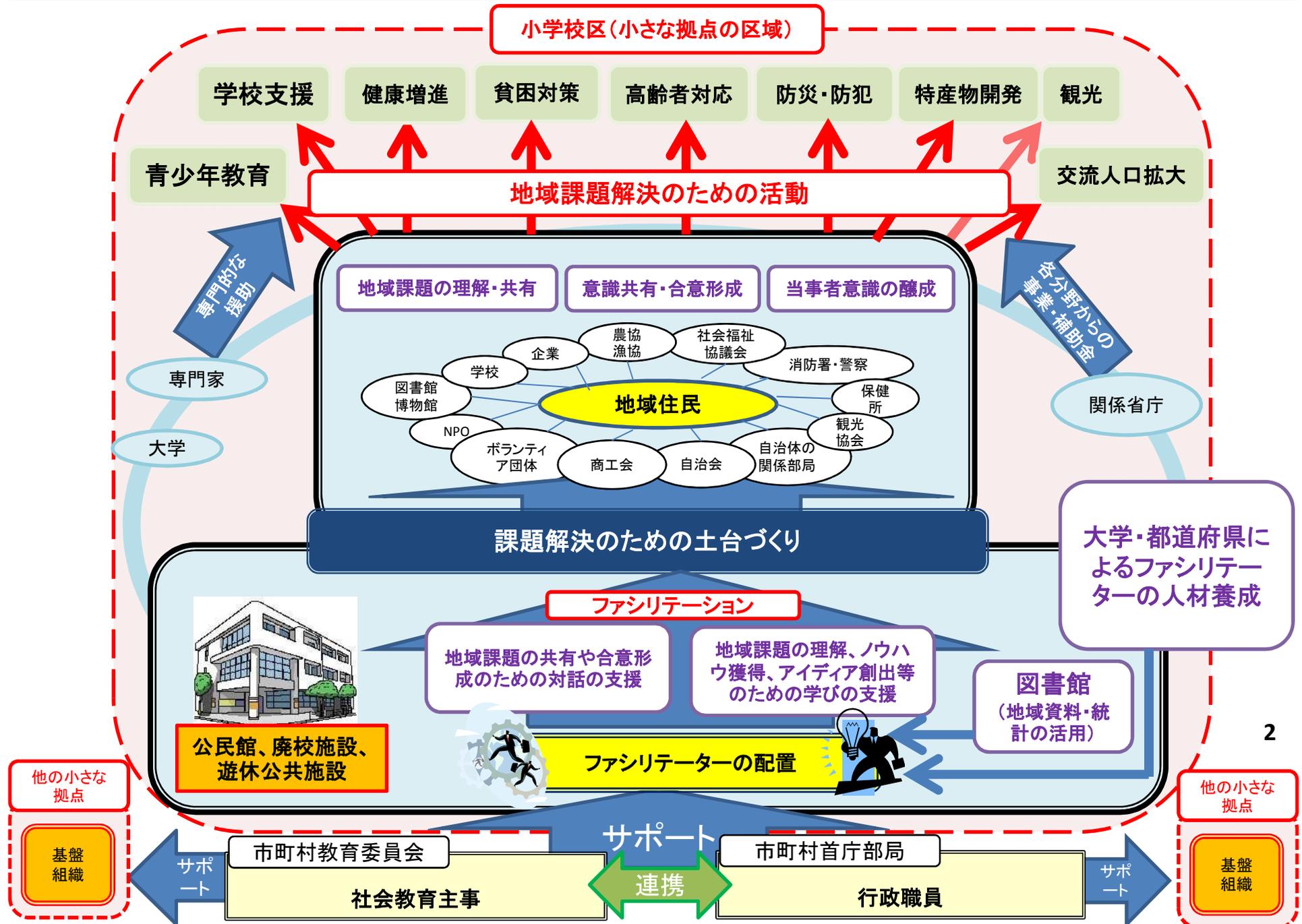
「総合戦略」が対象とする5年間のうちに、今後の地域の在り方、事業の取組方向について、集落生活圏単位で地域住民が主体的に参画し、地域の将来ビジョンを盛り込んだ「地域デザイン」(今後もその集落で暮らすために必要な、自ら動くための見取り図)を策定し、事業に着手することが求められる。「地域デザイン」は、「地方版総合戦略」に反映されることが望ましい。

##### 【具体的取組】

##### ◎ワークショップを通じた地域住民による将来ビジョン(「地域デザイン」)の策定)

・市町村のサポートや、ファシリテーターなど外部専門人材や地域人材、公民館等を活用し、地域住民が主体となって、今後の地域の在り方について学び考えていくワークショップの実施を推進する。その際、地域の現状や展望を整理する「地域点検カルテ」の作成を推進するとともに、「地域デザイン」の策定・実行まで長期間を要し得ることを踏まえて支援する。

「小さな拠点」における住民の主体的な地域課題解決・まちづくりの基盤となる「学び」と「行動」の支援



# 公民館がまちづくりの中心となる事例 ～新居浜市泉川公民館の取組～

**経緯** ・補助金減少、地域の環境悪化、社会教育関係団体の高齢化等により、地域の組織の再構築が必要になる  
 ・地域の現状を知るため全戸対象アンケート調査を実施し、その結果を分析し、住民による熟議により地域課題を抽出

## 泉川地域の課題

- 1 地域福祉の充実
- 2 環境美化の推進
- 3 安全・安心の確立
- 4 健康づくり
- 5 子供の育ちを支える

先進事例も参考にし、地域自ら課題を解決する「**地域主導型**」のまちづくりを目指し、**泉川まちづくり協議会**を設立

## 公民館とまちづくり協議会の関係

### 泉川まちづくり協議会

- ・安全安心部会
- ・環境美化部会
- ・地域福祉部会
- ・健康づくり部会
- ・子ども支援部会
- ・生涯学習部会
- ・総務部会

### 泉川公民館



公民館の職員が中心となり、**まちづくり協議会の総合事務局としてコーディネート役を担っている。**

市役所  
地域  
団体  
消防団  
NPO 等

連携

## まちづくり協議会 部会の主な取組

○ **安全安心部会**では、児童と住民と一緒に安全マップを作成したり、児童と登下校の見守り隊と一緒に遠足に行くなど、子どもから高齢者まで安全と安心が確保できるよう取組を行った。また、防災訓練は消防団との連携で実施することが定着。

○ **健康づくり部会・地域福祉部会**では、医療・介護費の削減を目指し、住民自身による意識調査やワークショップ、ウォーキングの実施など、大学とも連携して地域ぐるみで健康寿命の延伸に取り組んでいる。また、**健康づくり部会**では、食生活改善を目指した親子健康料理教室や健康増進のための「泉川健康体操」を自分達で作成し振付も行い、幅広く親しまれている。

○ **生涯学習部会**は、各部会が地域課題を解決するために、地域住民に啓発したい内容を持ち寄り、それを企画に練り上げ、「泉川ふるさと塾」を開設し、学習と実践を繋ぐ役割を果たしている。

○ **総務部会**は、自治会のブロック長と各部会長で構成し、情報共有と地域住民への周知を図っている。



## 評価と成果・・・地域の風土に明らかな変化が

「**自分たちの地域は自分たちの力で**」をみんなが口にするようになる。

- 1 子どもから高齢者までみんなで活動する機会が増えた。
- 2 受益者意識が薄れ、当事者意識が芽生え、膨らんできた。
- 3 子どもが地域で活躍し、学校支援地域本部も定着した。
- 4 タテ割り意識だけでなく、ネットワークのメリットが実感された。
- 5 前例踏襲だけでなく、新規創造へチャレンジが増えた。
- 6 学ぶことが実践に結び付く「知の循環型社会」へ展開中
- 7 同志の縁が増え、仲間との交流が拡大した。

# 住民主導の地域の課題解決、地域づくりの事例 ～秋田県北秋田市の取組～

(公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム取組事例)

市の現状: 10年間に6,300人の人口減少(現人口約34,000人)、高齢化率: 40%、若者の地域外への流出等、厳しい課題を抱える。



(課題解決のために目指す成果)  
地域を元気づけるために、市民による自発的取組の促進

**「おらほの地域応援し隊」の結成 = 地域人材の育成**

## 主な取組

課題解決のため、公民館が関係者、機関と連携しながら、取組の企画・立案、学習機会の提供、取組のコーディネートを実施。

### テーマ: まちづくり×人づくり

- ① まちづくりシンポジウムや市民によるワークショップ、講演会・講座の開催など多様な学習機会を提供(きたあきた「まちづくりカレッジ」、ふるさとの未来・再考!フォーラム等)  
→ 内陸線存続問題、人口減少、地域の活性化等の課題に対し、小・中・高・大学生・一般が連携して取組む仕組みの構築  
→ 若者を中心とした地域活動グループ「北秋田体験まるごと会議」が発足し、活動スタート  
→ 市のCMを制作し、秋田県で大賞を獲得。行政(市商工観光課)とも連携し若者による活動の成果が生まれる。

- ② 若者の定住化策として若手農家のイメージアップ、生産物のブランド化(トラ男米)  
→ 若手農家集団代表による講演の開催、全国への情報発信  
→ ふるさとへ根ざす若者による新ビジネス・起業の推進や、仲間づくり(ネットワーク)による地域活動の拡大

#### 【取組のために連携した機関等】

JA、商工会、民間企業、個人経営者、県地域振興局



### テーマ: 高校生・若者×地域づくり

- ③ 秋田北鷹高校生による地元特産品を使った商品開発プロジェクト: 開発商品「しょうゆバター餅」、「比内地鶏とししとうカレー」、「北秋田コロッケ」  
→ 市民参加の試食会やフォーラムでの研究発表、小学校との調理実習との連携など、幅広く市民の意見を取り入れるための仕掛けにより開発し、全国コンクールで準優勝  
→ 高校生の社会貢献活動をととした「地域経済活性化モデル」の構築 ※三重県相可高校との交流活動(料理コンクール等)

#### 【取組のために連携した機関等】

JA、商工会、市内小学校、民間企業、市長部局、県外高校 市商工観光課



### テーマ: 高齢者×イキイキプロジェクト

- ④ 高齢者による地域貢献の促進「アクティブシニア活動推進モデル」: 地域で元気に活躍している高齢者による「Gちゃんサミット」～まだまだ元気!おらがまちを応援し隊!  
→ 高齢者の仲間づくりや地域間交流、多世代(小学生～高校生、養護学校)との交流につながる  
→ アンコール開催では市外からの参加者も増え、県との共催や隣県との連携事業に発展

#### 【取組のために連携した機関等】

小中高校、社会福祉協議会、高齢者大学、養護学校、民間企業、老人クラブ、婦人会、県地域振興局

# 「交流をキーワードにした中山間地の集落活性化支援」 ～新潟県小千谷市の取組～

(公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム取組事例)

背景:人口の過疎化、少子高齢化、新潟県中越大震災により、中山間地域の集落は活力低下、後継者不足、集落の維持機能低下にもかかわらず、**自治公民館的分館は、活動マンネリ化、活動数減少。**



(課題解決のために目指す成果)

公民館のしかけにより、集落の課題解決の能力を高め、集落住民の内発を促し、主体的な集落活性化の活動に取り組む人材を育成し、集落住民の経済的・精神的な活力を生み出す。

## 主な取組

市内のモデル集落を対象に、取組内容を「交流」「体験」「拠点」のテーマに分けて、集落の活性化支援の学習機会を展開。

### 交流

#### ①「まちあるき」の実施 ～地域の価値を認識～

集落外からの参加者も募り、「まちあるき」を行い、集落の成り立ちや言い伝えなどを学ぶ。また、ワークショップで「まち歩きマップ」を製作。



「まちあるき」

#### ② 職員研修の受け入れ

市の新採用職員研修で、集落住民との対話する機会を設け、今後の業務に活かすきっかけをつくる。

→ 住民活動の活性化、地域の再認識

### 体験

#### ③ 教育体験旅行の受入先の強化

ホームステイ(民泊)による小・中学校の宿泊教育体験をさらに充実させるために、郷土料理の実習や食物アレルギー等の学習会、関東地方の教育体験旅行実施への訪問などの取組を実施。

→ 生きがいがづくり、集落活動の自信

### 拠点

#### ④「わかとち楽校」の開催

集落と交流する実践者との勉強会を実施。

#### ⑤ アグリビジネスプロジェクト

6次産業に取り組む農業者から、農産物加工の製造や販売に関する基礎知識を学習する機会の提供や、農業者と消費者との交流会の実施。



「わかとち楽校」

→ 里で生きていく思想・哲学、未来へのヒント

## 成果

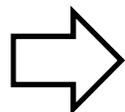
- ・集落の後継者等の若手が中心となって、今後の活動を展開。
- ・取組が集落住民の「気づき」を生み、行動力の糧となった。
- ・地域課題解決に対応する行政内部の役割分担が明確になった。(学習活動は公民館、実践は担当部局)



市内の他の中山間地域へ広めていく

# 「公民館活動を通じて高校生が中心となって進めるまちづくり」 ～秋田県大館市の取組～ (公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム取組事例)

背景:人口減少と高齢社会が進む地方都市の中  
の公民館



- ・利用者の高齢化、若年層の公民館離れ(利用の少なさ)
- ・「ふるさとキャリア教育」の義務教育課程終了後の継続



(課題解決のために目指す成果)

- 若年層の公民館利用の拡大
- ふるさとキャリア教育の継続

## 主な取組

高専生まちづくり会議「HACHI」の発足



公民館を中心に様々なイベントで「ふるさとキャリア教育」を実践し地域の活性化につなげる

### 初年度:「知る」活動

#### 【主な取組】

- 大館巡りの実施(県指定文化財の見学や産地直売所、駅弁販売店の訪問)
- 宮城県立本吉響高校との意見交換
- 公民館利用者や地域づくり実践者との意見交換
- 地域イベントでの市民アンケートの実施・結果報告
- 市長とのトークセッション(これまでの活動報告や意見交換等を行う)
- 「HACHIが元気にする大館まちづくり市民フォーラム」の開催

### 2年目:「実践」活動

#### 【主な取組】

- 子育てフェスティバルへの協力
- 生涯学習フェスティバルでの喫茶コーナーの設営及び活動PR
- ボランティアフェスティバル、子どもサミットでの活動PR
- 交流ボランティア事業への協力
- 駅-ONE ~ あおぞらいち ~ への協力
- 枝豆スイーツの開発
- 青森市の高校生団体の視察・意見交換の実施



## 成果

- ・参加高校生が地元大館の魅力の理解が深まった。
- ・地域イベントや公民館会場のイベントへの参加により、イベントの活性化につながった。

# ファシリテーター養成・研修に関する実証研究

(新規)

28年度要求額 69,150千円

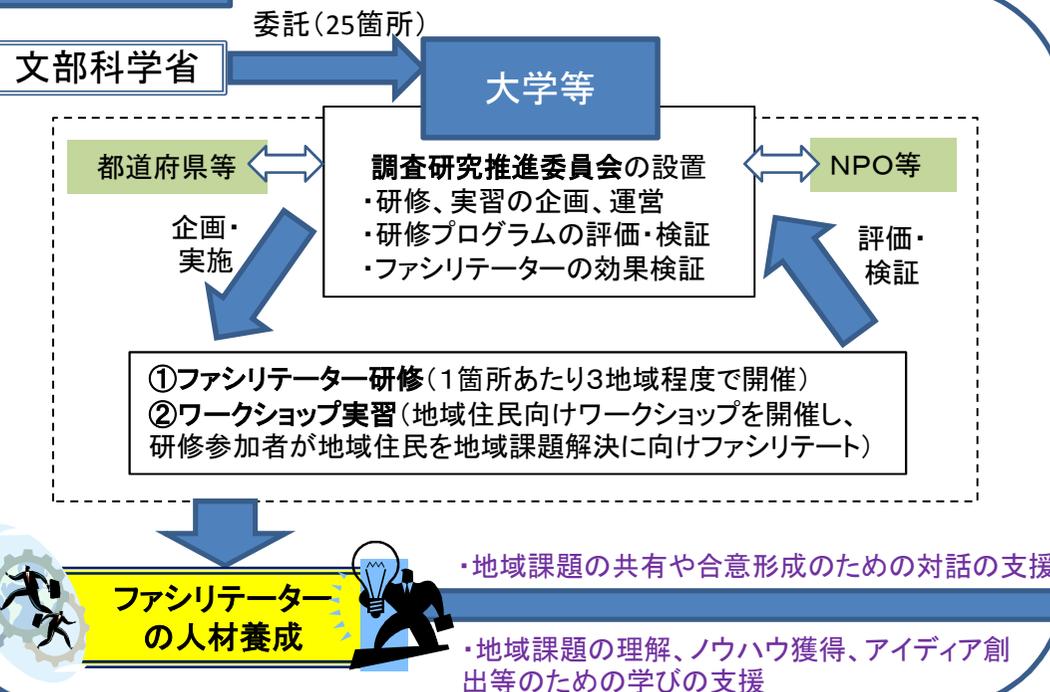
(「学校を核とした地域力強化プラン」の一部として実施)

## 事業の趣旨

地方創生を進めていくためには、地域住民が主体となって、地域の課題や魅力に自ら気づき、当事者意識を持って主体的な行動に結びつけていくためのファシリテーターの存在が重要である。

そのため、学びや対話を通じた地域課題の認識・理解・共有と、地域住民や関係者間での合意形成をファシリテートする、いわば「学び」と「活動」の仕掛け人となるファシリテーターを養成するための研修を試行的に実施し、その効果を測定するなど評価検証を行う。

## 事業の流れ



## まち・ひと・しごと創生基本方針2015

(平成27年6月30日閣議決定)

- Ⅲ. 地方創生の深化に向けた政策の推進
4. 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
- (2)「小さな拠点」の形成(集落生活圏の維持)
- ①地域住民による集落生活圏の将来像の合意形成

### 【具体的取組】

- ◎ワークショップを通じた地域住民による将来ビジョン(「地域デザイン」)の策定)
- ・市町村のサポートや、ファシリテーターなど外部専門人材や地域人材、公民館等を活用し、地域住民が主体となって、今後の地域の在り方について学び考えていくワークショップの実施を推進する。その際、地域の現状や展望を整理する「地域点検カルテ」の作成を推進するとともに、「地域デザイン」の策定・実行まで長期間を要し得ることを踏まえて支援する。

地域住民の課題解決に向けた主体的な行動に結びつけていくための「地域課題に対する基本的理解」、「当事者意識の醸成」といった「地域力強化」の基礎となる部分を担うファシリテーター人材を養成することにより、「小さな拠点」形成を推進するファシリテーターの量的拡充及び資質向上に資する。